







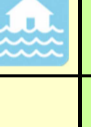



「温暖化からひょうごを守る適応策基本方針」に基づく施策体系表(令和2年3月末時点)

分野	<p style="text-align: center;">想定される主な温暖化の影響</p> <p>影響を引き起こす気候変動等</p> <p>高温・気温上昇 大雨 台風 海面上昇 渇水 水温上昇</p>	<p style="text-align: center;">適応策基本方針に基づく施策・事業</p> <p>施策・事業を分類する3つの基本的方向性</p> <p>知 継続的な観測・調査研究の知見により、温暖化の影響を知る！ 伝 情報提供・注意喚起の徹底により、温暖化の影響を伝える！ 対 既存の対策の着実な実施により、温暖化の影響に対処する！</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">農業、森林・林業、水産業</p>	<p>◆米の品質の低下(白未熟粒の発生、1等米比率の低下、酒米の消化性低下等)</p> <p>◆いちじく、くりの凍害発生</p> <p>◆果樹の栽培適地の移動</p> <p>◆麦類の茎立・出穂の早期化・凍霜害・湿害の発生</p> <p>◆大豆の落花・落莢・青立ち・収穫指数の減少</p> <p>◆露地野菜の収穫時期の早期化、生育障害の発生頻度の増加</p> <p>◆トマト等の着果不良・裂果・着色不良</p> <p>◆イチゴ等の開花期の前進・遅延・生育不良</p> <p>◆花きの開花期の前進・遅延・生育不良</p>	<p>◆食料生産性・品質の向上</p> <p>稲・麦・大豆等指導指針により、適切な栽培手法の指導及び高温耐性品種の選定及び転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移植時期の適正化の推進 ●適切な施肥と水管理の推進 ●堆肥等有機物施用や深耕による地力の向上の推進 ●水稻高温障害対策技術の普及啓発 ●高温耐性品種「きぬむすめ」への転換・普及 ●高温耐性オリジナル品種の開発等 <p>◆栽培技術情報の提供</p> <p>気象庁の1カ月予報等に対応した毎月の栽培技術情報の県ホームページへの掲載</p> <p>◆穀物・野菜・果樹等の品種改良・栽培法の試験研究</p> <p>農作物の品質低下に対する高温耐性品種の導入や適切な栽培手法の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夏季における品質安定化技術の開発 ●高温耐性品種の普及拡大等 <p>【高温対策】</p> <p>酒米(山田錦)の高温障害の機構解明 山田錦最適作期決定システムの開発 高温耐性オリジナル品種の開発(主食用米) 気化冷却を利用したイチゴ(培地気化冷却) トマト(パッドアンドファン)等の簡易冷房 マット式底面給水法を活用した夏季の省力育苗システム カーネーションの夏季夜間短時間冷房等 生育予測技術による露地野菜の収穫早期化等に対応した出荷調整・栽培改善</p> <p>【凍害対策】</p> <p>イチジクの凍害危険度予測 イチジクのオーバーラップ整枝技術による凍害抑制 株ゆるめ技術によるクリの凍害防止等</p> <p>【降雨極端化対策】</p> <p>露地野菜における根系の非破壊・継続的観測手法の開発 地下水位制御システム(FOEAS)導入 簡易土壌水分計による灌水管理・日射制御型拍動自動灌水装置等の合理的灌水手法の開発等</p>
	<p>◆乳用牛、肉用牛、豚の繁殖成績の低下</p> <p>◆乳用牛の乳量・乳成分の低下、採卵鶏の産卵率の低下</p> <p>◆肉用牛、豚及び肉用鶏の増体率の低下</p>	<p>◆畜産の生産性向上対策の推進</p> <p>酪農、肉用牛、養鶏、養豚及び養蜂等の飼養管理技術の向上</p> <p>乳用牛の乳量等の家畜の能力向上</p> <p>家畜の暑熱対策の推進</p>
	<p>◆田植え時期や水管理の変化</p> <p>◆農地の冠水被害等のリスクの増加</p>	<p>◆農業生産基盤対策</p> <p>緊急性が高いと判断される農業水利施設(ため池・井堰・樋門)の整備や統廃合施設の老朽化対応した適時・適切な補修・更新等の長寿化対策の推進</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">森林・林業</p>	<p>◆山腹崩壊、地すべり、崩壊土砂流出等の頻発化</p> <p>◆高山帯・亜高山帯の植生の衰退</p> <p>◆冷温帯分布領域の減少・暖温帯分布領域の拡大</p> <p>◆病虫害危険度の増加</p>

分野	想定される主な温暖化の影響		適応策基本方針に基づく施策・事業	
	影響を引き起こす気候変動等	影響	知	伝
水産業	<ul style="list-style-type: none"> ◆回遊性魚介類の分布・回遊域の変化 ◆瀬戸内海や日本海などでの南方系魚種の増加や北方系魚種の減少 ◆植物プランクトンの現存量と一次生産力の変動 ◆磯根資源量の変化 ◆ノリ養殖開始時期の遅れ・年間収穫量の減少 ◆ワカメ種苗生産の不安定化、養殖開始時期の遅れ ◆赤潮の長期化や熱帯性・温帯性の有害・有毒プランクトンの分布の拡大 ◆ブリ、トラフグ等の養殖適地の北上 		◆漁場環境保全対策調査 漁場環境の保全及び漁場の一次生産力の変化予測 貝毒の監視などに役立てるための、播磨灘、大阪湾、紀伊水道、日本海における定期的な海洋環境のモニタリング調査(水温、塩分、栄養塩類、プランクトン分析)	知 伝
			◆気候変動に対応した種苗生産方法の改良と生産現場への技術移転 高水温化に対応した養殖品種の作出や生理特性の解明(ノリ、ワカメ等)	知 伝
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◆作業中の熱中症による死亡者数の増加 ◆野生鳥獣の分布拡大による農作物、造林木や水産資源等への被害 		◆農作業中の熱中症対策 農作業中の熱中症対策について注意喚起	伝
			◆鳥獣害対策 野生動物の農作物被害等が甚大な地域へのバッファゾーン及び集落防護柵の設置 野生動物生息環境を改善するための奥地人工林の広葉樹林への転換 野生鳥獣の生息状況等に関する情報の把握 集落ぐるみの被害対策活動に対する専門家派遣等の支援	対
水環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆水温、水質、栄養塩類等の流出特性の変化 ◆溶存酸素の低下 ◆沿岸域の塩水遡上域の拡大 		◆公共用水域の常時監視 河川、湖沼、瀬戸内海等の海域の継続的な水質測定調査の実施	知
			◆ひょうご水ビジョンの展開・総合的水資源対策 水源状況の情報発信 節水型ライフスタイルの普及啓発 水の安定供給の確保に向け、老朽化した水道施設の計画的な更新を進めるとともに、水道事業の健全経営を維持 渇水時には兵庫県渇水対策本部を設置し、利水の緊急措置、被害状況の把握及び応急対策の実施とその調整連絡を実施	対
自然生態系	<ul style="list-style-type: none"> ◆分布域やライフサイクル等の変化 ◆種の移動・局地的な消滅による種間相互作用の変化 		◆生物多様性ひょうご戦略の推進 気候変動により引き起こされる生物多様性の損失や生態系サービスの低下に関する普及啓発及び戦略に基づく各種施策の推進	対 伝
			◆森林の適正な保全と管理 ナラ枯れ等の被害対策や保安林制度等の適正な運用 ◆野生鳥獣保護管理(ワイルドライフ・マネジメント)の推進 生息数が著しく減少(増加)などしている鳥獣の保護(管理)	対
水害(洪水、内水)	<ul style="list-style-type: none"> ◆洪水を起こしうる大雨の影響の増大 ◆施設能力を上回る外力による水害の頻発化 		◆総合的な治水対策の推進 地域総合治水推進計画に基づく河川改修・雨水管の整備等の河川・下水道対策、校庭貯留・ため池貯留等の流域対策 市町の水防活動支援・県民の水防意識啓発等、防災学習などによる減災対策の推進	対
			◆風水害等に備えた減災対策(河川関連) 河川監視カメラ、氾濫予測情報、CGハザードマップ、増水警報システム等の整備・運用 洪水浸水想定区域の周知等	伝
自然災害・沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> ◆波高や高潮偏差の増大による港湾及び漁港防波堤等への被害 ◆強い台風の増加等による高潮偏差の増大・波浪の強化 ◆高潮等の浸水被害の拡大や海面水位の上昇に伴う臨海部産業や物流機能の低下 ◆高潮等の浸水による背後地の被害や海岸侵食の増加 		◆気象・海象モニタリングの推進 潮位観測等を継続し、気候変動による影響を的確に把握	対
			◆風水害等に備えた減災対策(海岸関連) 港内カメラ、潮位等観測情報、CGハザードマップ等の整備・運用	伝
土砂災害(土石流、がけ崩れ等)	<ul style="list-style-type: none"> ◆土砂災害の頻発と甚大な被害の発生 ◆警戒避難のためのリードタイムが短い土砂災害の増加 		◆第3次山地防災・土砂災害対策計画の推進(土砂災害関連) 土砂災害特別警戒区域に指定された谷出口周辺やがけ直下に人家がある等、緊急性の高い箇所では山ダムや砂防堰堤、急傾斜地崩壊防止施設等を重点的に整備	対
			◆道路防災対策 道路への落石、崩土の防止対策等の推進 ◆農村の防災・減災対策の推進 防災上の緊急性が高いと判断される農業水利施設(ため池・井堰・樋門)の整備や統廃合	対
強風等	<ul style="list-style-type: none"> ◆強風や強い台風の増加 ◆竜巻発生好適条件の出現頻度の上昇 		◆風水害等に備えた減災対策(台風・竜巻関連) 「ひょうご防災ネット」への登録者を対象とした気象状況、避難情報の提供	伝

分野	想定される主な温暖化の影響		適応策基本方針に基づく施策・事業	
	影響を引き起こす気候変動等	影響	知	運
防災体制等	～自然災害・沿岸域共通～		◆兵庫県地域防災計画の推進 「兵庫県地域防災計画」の所要の見直し、市町の防災体制の充実強化への助言等	対
		◆24時間監視・即応体制の運用 災害等の緊急事態の発生への備え	対	
		◆気象台等と連携した減災対策 神戸地方気象台等と連携を図り、今後の気象情報等を情報収集し、総合的な分析から被害発生のおそれのある地域の警察署へ機動隊等を先行配置	対	
		◆災害時即時対応体制の強化 緊急事態の発生に備え、24時間監視・即応体制を維持するため、職員による宿日直体制、災害待機宿舎に入居する指定要員及び業務要員による待機体制の継続	対	
		◆災害ボランティア活動を支える体制の整備 被災者ニーズに応じた活動が推進できる体制づくり 災害ボランティアバスの派遣や大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト等による旅費や活動費助成等	対	
		◆ひょうご防災ネット(ひょうごEネット)の運用 メール及びスマートフォンアプリのプッシュ通知機能等により、災害発生時に避難情報等の緊急情報を発信 外国人向けに12言語に対応した「ひょうごEネット」の運用	運	
		◆フェニックス防災システムの運営 気象情報や各市町における避難情報、避難所開設情報等を消防署等の各防災関係機関と共有し、併せて、県ホームページやアラート(災害情報共有システム)を活用した住民向けに防災(気象)情報等の情報を発信	運	
		◆防災教育・学習 人と防災未来センターにおける過去の風水害の脅威についての展示(実写映像の放映) 「CG ハザードマップ」ホームページ中の防災学習サイトの運用	運	
		◆兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)の推進 地震、津波、風水害、豪雪、竜巻などあらゆる自然災害を対象とした兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)の加入促進	対	
		◆災害時の被災者支援 災害弔慰金・災害援護金の支給 災害援護資金の貸付 住宅再建支援のための借入金利子の一部助成 高齢者の住宅再建に対する補償(災害規模により詳細を検討)	対	
		◆港湾の事業継続計画(港湾BCP)の運営 主要港湾の事業継続計画(港湾BCP)の適宜見直し、改善等	対	
健康	暑熱	◆熱中症発生率の増加 ◆熱中症搬送者数の増加 ◆熱ストレスによる死亡リスクの増加	◆県ホームページ、チラシ等での熱中症への注意喚起 熱中症予防について記載したチラシを作成し、県ホームページへの掲載及び配布により、熱中症予防を普及啓発	運
	感染症	◆デング熱等の感染症媒介蚊(ヒトスジシマカ)の生息域の北上 ◆感染症を媒介する節足動物の分布可能域の変化 ◆気温上昇や降水量の変化による感染リスクの増加や発生特性の変化	◆感染症情報センターの設置 感染症の情報を収集・解析・評価し、県民や医師等の医療従事者に対して積極的に提供するため、県立健康科学研究所に感染症情報センターを設置	対
	その他	◆微小粒子状物質(PM2.5)等大気汚染物質の濃度変化 ◆光化学オキシダント濃度上昇に伴う健康被害の増加	◆蚊媒介感染症についての注意喚起 県ホームページへの掲載による蚊媒介感染症についての注意喚起	運
産業・経済活動	産業・経済活動	◆企業の生産活動や生産設備の立地場所選択への影響 ◆生産設備等への物理的被害	◆感染症の予防・拡大防止 感染症に関する情報の提供、洪水時における市町への消毒等の指示	対
	観光業	◆風水害による旅行者への影響	◆大気汚染対策の推進 光化学オキシダント・微小粒子状物質(PM2.5)等大気汚染物質の現状把握のための調査・研究ならびに県民への情報発信及び注意喚起の実施 有害大気汚染物質の環境モニタリング調査の実施	知 運
			◆県内事業所事業継続計画(BCP)策定の促進 国が定めるガイドライン(自然災害時の対応含む)の普及啓発等を通じた県内中小企業の事業継続計画(BCP)の策定を促進	対
			◆旅行者の災害時対応方策の充実 県内への旅行者が被災したときに備え、一時滞在施設や備蓄品の確保や、適切な情報を提供する等、旅行者の安全安心を確保するための環境を整備	対
			◆災害時における外国人への支援策 災害発生時における外国人に対する支援実施のための通訳ボランティアの派遣及び問合せ窓口の設置	対

分野	想定される主な温暖化の影響		適応策基本方針に基づく施策・事業	
	影響を引き起こす気候変動等	     	施策・事業を分類する3つの基本的方向性 <ul style="list-style-type: none"> 知 継続的な観測・調査研究の知見により、温暖化の影響を知る！ 伝 情報提供・注意喚起の徹底により、温暖化の影響を伝える！ 対 既存の対策の着実な実施により、温暖化の影響に対処する！ 	
国民生活・都市生活 インフラ・ライフライン等 都市生活の暑熱低減	◆豪雨による地下浸水・停電・地下鉄への影響 ◆濁水や洪水、水質の悪化等による水道インフラへの影響 ◆豪雨や台風による切土斜面への影響	  	◆ 自立・分散型エネルギー等の導入促進 中山間地域等での再生可能エネルギーを活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築支援 対	
			◆ 水道インフラ対策 災害による被害を受けにくく、迅速な復旧を可能とする水道施設整備の推進 災害発生時の安定的な給水の確保のため、「兵庫県水道災害相互応援に関する協定」に基づいた応急給水・災害訓練の実施及び水道事業者間の連絡管整備等の水道広域連携の推進 対	
			◆ 緊急輸送道路等の整備 地域の防災道路強靱化プランの推進による緊急輸送道路ネットワーク等の整備・強化 災害時の迅速な道路啓開・復旧等の体制の整備 対	
			◆ 災害廃棄物処理対策 市町等との相互応援協定に基づき、被災市町と応援市町間の調整を実施する等、市町の迅速な災害廃棄物処理を支援 災害廃棄物処理担当者研修の実施 市町災害廃棄物処理計画の策定の支援 対	
	◆ヒートアイランド現象の進行と気候変動の重なりによる都市域での大幅な気温上昇		◆ 人工排熱の低減 住宅の省エネ化・省エネ機器導入の推進 省エネ型ビルの普及促進 エコドライブの推進 ひょうご公共交通 10 年計画の推進 道路交通の円滑化等 対	
			◆ 都市地域の緑化の推進 条例に基づく建築物及びその敷地の緑化の推進、住民団体等が実施する緑化活動を支援する県民まちなみ緑化事業の実施 対	
			◆ ライフスタイルの改善 夏季の省エネ・軽装・打ち水の推進等 対	
			◆ ヒートアイランド現象の観測・調査 ヒートアイランド現象把握のための県内学校に設置された百葉箱を活用した気温モニタリング調査 知	
分野横断的施策			◆ 県民・事業者・団体等、各主体との連携・情報共有 ホームページやパンフレットの活用による情報発信 県民向けアンケートやフォーラム等の実施による情報共有・意識調査・ニーズ把握 県民協働による温暖化事象調査や適応策の検討	
			◆ 気候変動適応の取組を浸透するための環境学習・教育 地球温暖化防止活動推進員による温暖化対策に関する普及啓発 地域の活動団体等への情報提供・活動支援等を通じた環境学習・教育の推進	
			◆ 環境、人、社会、地域等に配慮した消費行動(エシカル消費)の推進 地域の団体・グループとの協働実践学習・啓発事業等によるエシカル消費の推進	
			◆ 気候変動の調査・研究 国、気象台、大学、民間研究機関、県研究機関等との連携による気候変動影響把握のための調査・研究の実施	